

きびがらの細工 (其三)

東京女高師訓導 山 形 寛



五、きびがらを棒状のまま用ひて構成する教材(續き)

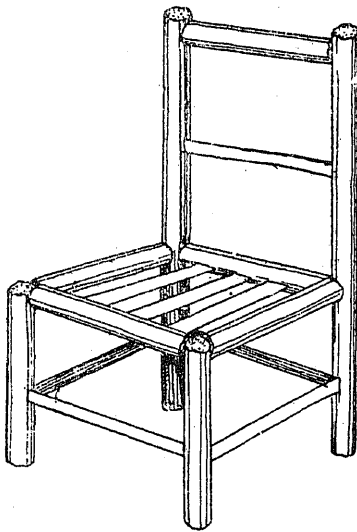
七、椅子

第八圖に示した様な形の椅子は、前に説明した

寢臺の、長さが短くなり高さが高くなつたに過ぎないのである。従つてその工作法も寢臺に準ずればよいのであるが念のためその大略を左に述べやう。

(1) 先づ次に擧げる如き諸材料を作る。中位の太さのきびがらを長さ約十五センチに切つたもの二本(後方左右の柱)、同じく長さ約七センチに切つたもの二本(前方左右の柱)、同じく長さ約五セ

ンチに切つたもの五本(各所の模稜)と、きびがらの皮をやや廣くさいたものを長さ六センチ半に切つたもの八九本とを作る。



第八圖 椅子

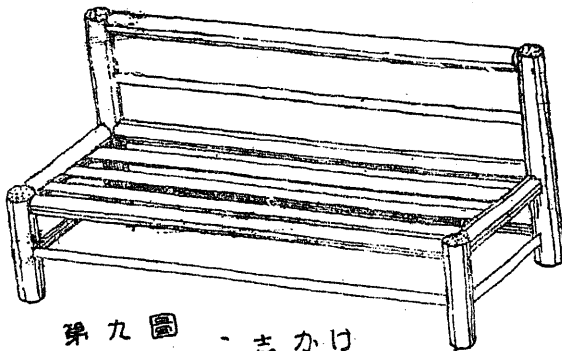
(2) 長さ約十五センチの棒二本、長さ約五センチの棒二本と、長さ約六センチ半の皮二本とで椅子の後方の部分を組立てる。その組立法は寢臺の頭の方の部分の工作法に準ずればよい。

(3) 長さ約七センチの棒二本、長さ五センチの棒二本と、長さ約センチ半の皮一本とで椅子の前方の部分を作り、前工程で作った椅子の後方の部分の下半分の形と同じ形にする。その工作法は前工程に準ずればよい。

(4) 第二第三の兩工程で作ったものを、長さ約五センチの棒二本と、長さ約六センチ半の皮五本乃至六本とで接合して第八圖に示す如き形とする。この組立方は寢臺の最後の組立方と同様な方法と注意とを以てすればよい。只椅子の腰を掛ける上面を構成する皮の数は圖には三本になつて居るけれども、四本でも五本でもよい。皮の幅の比較的廣い時は數少く、狭い場合には數を多くすればよい。

い。

(5) 最後に全體の歪を修正して仕上げる。



第九圖 こまかけ

八、腰 掛

第九圖は長い腰掛である。これが工作法は前課の椅子及び前々課の寢臺に準ずればよいのであるが、その大要を説明すれば次の通りである。

(1) 先づ次に擧げる様な諸材料を作る。中位の太さのきびがらを長さ約十二センチに切つたもの三本、同じく長さ約七センチに切つたもの二本、同じく長さ約四センチに切つたもの二本、同長さ約三センチに切つたもの二本、きびがらの皮をやゝ幅廣く割つたものを長さ約十三センチに切つたもの六七本、同じく長さ約五センチに切つたもの二本とを作る。

(2) 長さ約七センチのきびがら一本と、長さ約四センチのきびがら一本と、長さ約三センチのも的一本と、長さ約五センチの皮一本とで椅子の側面をなす材料を組立てる。これは同形同大のも

の二個を作る。

(3) 第二工程で作つた兩側面をなす材料にそれ／＼棒狀のきびがら及び皮を第九圖に示す如く接合し、歪をなほして仕上げる。

この工作は最後の結合に用ふる材料の數が比較的多く且つ長いから、初めから注意してやらないとうまく行かないこともある。

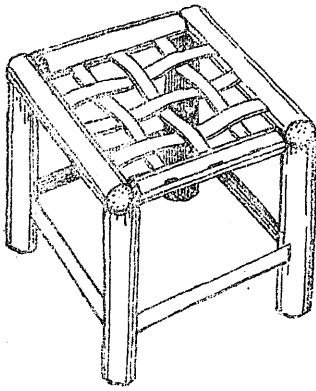
若しこの工作に於て第九圖に示すものと少しくやり方を變へて、椅子を作つた時の如く初めに後方の面をなす部分と前方の面をなす部分とを作り然る後に兩者を結合する様にして、腰を掛ける上方の面に用ひた皮の割つたものは、短い材料を横に數本併べる様にすれば(即ち第九圖に示したものと直角をなす方向に)工作は幾分樂になる

又上方の腰を掛ける部分をなす數本の皮を全然止めれば兒童幼兒にも樂に出来る様になる。尙ほ又之を用ふるにしても、大體の骨組を作つてから

後に、側方から横棧になつて居るきびがらを刺し通して作れば餘程作り易くなる。(寢臺の工作法の説明の終りに述べた結合法参照)

九、小椅子

第十圖に示した様な倚りかゝりのない椅子(腰子と云つてもよい)の製作は、前に述べた二三のものよりも容易であるけれども、圖に示した様に上面を格子に組むことには多少の技巧を要する。左にその工作法の一斑を述べやう。



第十圖 小椅子

(1) 中位の太さのきびがらを長さ約七センチに切つたもの六本と、同じく長さ約五センチに切つたもの二本と、幅を二三ミリに割つた皮を長さ約八センチに切つたもの七本と、幅二三ミリに割いて皮を十センチ位に切つたもの三本とを作る。

(2) 七センチきびがら二本と、五センチのきびがら二本と八センチの皮とを結合して、ほど正方形をなす枠の中に皮の棧の三本ついたものを作る

(3) 第二工程で作つたものに、長さ約十センチの皮を側方から刺し、先端で初めに作りつけて置いた皮の棧を縫ふやうに通して、圖に示す如き格子を作る。而して尙ほ剩した皮の餘分に残つて居る部分を缺で切りとる。

(4) 次に残つて居る四本のきびがらと、きびがらの皮とで四本の脚を組立て、然る後に第三工程で作つた枠に結合し、歪をなほして仕上げる。

この工作に於て格子に組む皮はあまり幅が廣く

てはやり悪い。特に後から刺して組む材料は然りである。又この格子は細かく組めば出来上りはよいけれども、それだけ困難が多いから三本づゝ位でよい。

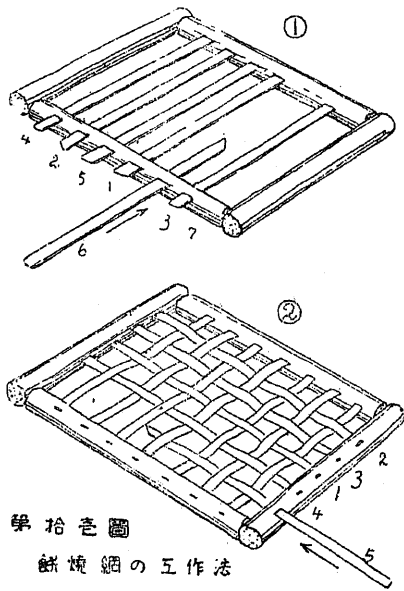
前に作つた寢臺、椅子、腰掛等の上面も、本教材で説明した様に格子に組めば一層面白くなる。然し形の關係上初めて枠を作り格子組をしてから全體を組立てることの困難な形のものに於ては、格子組をやつて居る間に先に組立てた諸部分に狂を生じたり、ゆるみが來たりしてうまく行かないものである。

この教材は幼稚園では困難であらう。尋常二年位ならば大抵の兒童には出来る。

一〇、餅焼網

第十一圖は餅焼網の工作法を示したものである。これは平面的なものであるから、一見工作が容易

のやうであるけれども、實際はそう簡單に行かないもので多少の技巧を要するものである。



餅焼網の工作法

この教材はあまり兒童の興味を引くものではないかも知れんが、然しきびがらの性質をよく利用したものとして技巧的方面から見れば可なり面白いのあるもので、この點をよく理解させてやらせて見れば、案外面白い結果を見ることも出来る。

その工作法は次の如くするのである。

(1)長さ約十二センチのきびがら四本を組合せて長方形の枠を作る。この枠は二本の内側に入れた棒を少し長くして置いて今少し細長い長方形にしてみよう。

(2)きびがらの皮を幅二三ミリに割いたもの十数本を作る。これはなるべく幅をそろへるがよいそして厚さも厚いのや薄いのがあつては後で用ふる時にやり悪いから、若し肉がついて居るものがあつたならば鋏の刃か何かでこそげて薄くして置くがよい。厚いよりも薄い方がやりよいからである。

(3)割つた皮の先端を少しく斜に切つてから、枠の内側に入れてある棒の一つの側面から刺通して他の棒に迄通す。その通す順序は第十一圖の一圖に示す数字の順にやる方が各の皮の間隔も一樣になり、且つ組立方も容易である。この組立は一

寸考へれば枠を組む時に縦棧(皮)を外側になる棒に刺して置いて一時に組立てた方が便宜の様に思はれるけれども、さうする時は後で横棧を通す時に接合部に於て横に力が働くために接合部がゆるんで、破損する恐れがあるから、特に普通の構成法から見ると思はれる方法によつたのである。

(4)刺し通した棧の餘分の部分を鋏で切り去る
(5)次に第十一圖二に示す如く、初めに組んだ枠の外側の棒の外側から、皮の棧を刺し通し、その先端で第三工程で作つた棧を縫ひ乍ら通し進めて、圖に示す如く組む。この棧を通す順序は圖に数字で示してある順序にしたがふが便である。
(6)棒の餘分の部分を切り去り、歪をなほして仕上げる。

以上述べ來つた教材はきびがらを棒状のまゝ用

ふ。

ひて構成する教材の例であるが、この種の教材は考へれば甚だ數多くあるであらうが、茲にはこの位で止めて置かう。

又以上述べた教材の中終りの方の數教材は幼稚園で課するとしては困難であるかもしれないが、しかも少しく形を變へれば容易に出來得やうと思

以上述べた教材は何れもきびがらの棒と皮とを併用（表面に見へる場所に）したもののみである棒ばかりで組立てる方がよい教材もあるけれどもきびがら細工としての面白味は使用したものに多いやうであるから、その種のものを示したのである。（この項完）

田舎の幼兒を集めて

幕張農村幼稚園 山村 きよ

一

新任、しかも始めて出來る、そして農村の子供をこの三つの事に大きな理想を描いて赴任したのはこの四月でした。所は幕張といふ海岸です。豫

め先生からお話は伺つて居りましたが、いよいよ實際の任に當る事になつて千葉縣女子師範學校長平田先生及び附屬小學校主事土屋先生からこの幼稚園設立についての趣意を伺ひました時にはほん